

ロシア東欧 経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2003年(平成15年)1月15日号 No.1249

目次

2003年日露経済協力の拡大へ向けて.....	遠藤寿一 1
エトセトラ	10
新刊『ロシア 森林大国の内実』/10	
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	10

2003年日露経済協力の拡大へ向けて

ロシア東欧貿易会顧問・三菱商事国際戦略研究所顧問

遠藤 寿一

はじめに

1月9日訪口した小泉総理は、翌10日プーチン大統領との日露首脳会談に臨み、今閉塞感の漂う日露関係を打開し、全体として前進させるために、6分野を同時並行的に進める指針として「日露行動計画」に署名した。

さらに、小泉総理は日本歴代の総理としては初めて、1月12日ロシア極東地域の中心であるハバロフスクへ立寄り、シベリア極東のエネルギー資源開発への日本の協力を表明している。

これに対しプーチン大統領は、今般の首脳会談を「日露外交は、ようやく原則から現実へ」第一歩を踏み出したと評している。

従来の日露外交は「領土問題の解決」-「平和条約の締結」-「経済協力」となっていたが、今回の「日露行動計画」により、経済もフロントランナーとして認知されたことになる。

その目玉となるかと注目され、昨年来論議されてきた「アンガルスク - 太平洋岸原油パイプライン」プロジェクトが、「日露行動計画」に明記されるものと期待されていたが、署名された文書は、「極東シベリア地域のエネルギー資源開発、輸送のためのパイプライン整備のプロジェクト実現に協力する」とのあいまいな表現に終わっている。

この背景には、昨年基本計画が合意されていながら、中露首脳会談で正式調印ができなかった「アンガルスク - 大慶原油パイプライン」プロジェクトに対する配慮もあるだろうが、むしろ